

坂本 安里紗

2月16日(土)

前日から、一緒に留学に行く東京の友人の家に一泊させてもらった。マンション住まいなのだが、ゲストルームという来客用の部屋がついており、1泊2000円で広くて快適な部屋に泊まることができた。友人のお母さんがパン屋飲み物を用意してくれており、大変お世話になった。ダイソーでお土産用に和柄ハンカチや必要なものを購入し、12時半に出発。成田空港に行く途中の駅(おそらく日暮里駅)で2万円ほど換金した。たくさん換金すると割引されるという制度があるらしく、1ドル88円だったのが、84円くらいで換金できた。16時過ぎ、空港に到着。搭乗手続きを済ませ、ホストファミリーのお土産を購入。もっと早くに買う予定だったが、家族構成の情報が来たのが2日前だったので、空港で買うことにした。京都土産の店で扇子、お香、ハローキティの鏡(日本のキャラクターは海外の子供に人気があると聞いたので)、和柄のポケットティッシュケース(ポケットティッシュのような持ち運び用のティッシュはニュージーランドになく、喜ばれると聞いたので)を購入した。荷物検査を済ませ、搭乗口へ。乗り物で眠れない性なので、友人と2人で日本酒とビールを購入。滑走路混雑などで出発が30分ほど遅れたが無事出発。私の席に人が座っていたが、間違いでよかった。3人がけの席で、窓際に私、真ん中に友人、その隣に大学生くらいの男性が座っていた。飛行機はニュージーランド航空でANAとの共同便。思った以上に豪華で驚いた。座席は広く、毛布、枕が置いてあり、座席には画面が...!以前、オーストラリアに行ったとき、Jetstarで行ったのだが、狭い、寒い、毛布は有料で友人とバスタオルにくるまりながら渡航する、とかなり辛かったので、あまりの格差にかなり驚いた。大韓航空でニュージーランドに来た友人に話を聞いたところ、大韓航空も設備が良かったとのことなので、私が海外慣れしていないだけな気もするが。夕食の機内食も豪華で、チキン(洋食)と魚(和食)から選べた。友人がチキンを頼み、友人の隣の男性もチキンを頼んだのだが、友人までチキンがなくなってしまったらしい。それを知った友人が男性にチキンを譲っていて、見ず知らずの人に優しく出来る人だなあ、見習いたいものだと思った。また、飲み物のサービスがすごかった。食事の際にジュースが出てきて、食後にお茶、ワイン、さらにコーヒー・紅茶と至れり尽くせり。学生の分際で飛行機にお金を使ってしまったことに若干後ろめたい気持ちがしたが、乗ってしまったものは仕方がないので楽しむことにした。食後、日記をつけ、買ってきたお酒を飲みながら、備え付けのAV機器?に入っていた脱出ゲームで友人とひたすら遊ぶ。スーパーファミコンのようなゲームなのだが、はまってしまって深夜2時まで眠れなかった。お酒が回ってもっと早く眠れるかと思ったが、飛行機の揺れと酔で絶妙に気持ち悪くなり、眠気どころではない。今後は飛行機にお酒は持ち込まないようにしようと思う。深夜2時頃、就寝。友人はまだゲームをし

ていたが、途中で眠くなり寝てしまった。

2月17日（日）

朝 7 時、起床。機内のアナウンスで目が覚める。すぐに朝食が運ばれてきて、気持ち悪いながらも食べる（貧乏性ですね）。日本食もしばらく食べられないと思い、お酒と寝不足の気持ち悪さもあったので和食を選択。朝から豪華な食事ですぐに具合が悪くなる。身支度を済ませているうちに経由地のクライストチャーチに到着。クライストチャーチまでの搭乗客を降ろし、清掃をするらしい。荷物検査やお手洗いを済ませていると、すぐに準備が整った。滞在は 1 時間ほど。再び飛行機でオークランドへ。途中クッキーと紅茶が出てくる。とことんサービスが良いが、正直もうお腹いっぱいだった。隣の男性と話したところ、彼は大学 1 年生で、オークランドの語学学校に留学することだった。残念ながら同じ学校ではなかったが、お互いの健闘を祈ってお別れした。入国手続きの時、ニュージーランドで誕生日を迎える友人が審査官に「ここで誕生日を迎えるのね、**have a good time!**」というようなことを言われていて、国民性なのか、フレンドリーだなあと感じた。ゲートを出ると、出迎えの家族や旅行会社の人でごった返している。私たちの語学学校のドライバーを見つけようと集合場所の地図を確認していると、2 人のドライバーが話しかけてきて「**Are you a student?**」「**Which university?**」と聞かれ、オークランド大学だと答えると、そのうちの 1 人がオークランド大学のドライバーだった。先に待っていた日本人の女性 2 人とバスに乗る。空港から近い順にホームステイ先に下ろされるのだが、私の友人が最初で、次が相席した 2 人（ステイ先も一緒だったらしい）、最後が私だった。住宅街から city へ出て、街を抜けて海沿いを走り、さらに住宅街へと入ったところに私のステイ先があった。着くとホストマザーの **Helen** が笑顔で出迎えてくれ、子供たちに挨拶をして部屋に案内された。私の部屋は 1 階にあり、部屋の使い方や家のルールなどを説明してもらった。家は豪邸で、リビングに大きなテレビ、映写機、庭にプール、などなど。一番驚いたのは、バスルームが 3 つあり、私が使うのは来客専用だから好きに使っていいとのことだった。案内の途中で猫を発見。私が猫好きなのと、資料には **No Pet** と書いてあったのと、とても驚いた。説明が終わり、昼ご飯がまだだったのでサンドウィッチを作ってもらった。**Helen** の姉が子供達を預かりに来て、私は **Helen** の運転で学校への行き方を教えてもらった。本来、初日はホストファミリーが学校までついてきてくれるのだが、**Helen** は仕事があったため、前日に案内することになっていた。バス停や **City** でのバスの乗り換えを確認する。車の中では私のことや家のこと、オークランドのことについて話した。帰りに子供達を迎えに **Helen** の姉の家に寄る。姉夫婦と娘が子供達と遊んでいた。私も部屋に入ったが、あまり会話に入ることができなかった。帰宅し、夕食までの間部屋にいたのだが、床に座って眠ってしまった。**Helen** が起こしに来てくれ、ようやく起きる。とても恥ずかしかった。夕食はパスタ。子供たちは食事の間中テレビを見ていた。食後に **Hokey PokeyIcecream** を出してくれた。ニュージーランドの伝統的なアイスクリームらしい。とても美味しかった。

たのと、気遣いに感謝。疲れていたのですぐにシャワーを浴びて就寝。

2月18日（月）

5時半起床。顔を洗って（万年筆で日記を書いている途中で寝てしまったので、インクが顔中についていた）朝食。コーンフレーク用の皿がないのでパンを食べることに。ラズベリーのジャムが美味しい。パンも、ライ麦のようなものがたくさん入っていて美味しかった。家を出るとき、Helen が鍵の開け方を教えるためにわざわざ起きてきてくれた。親切。7時に家を出る。バスがなかなか来ないので不安になる。教わった通りにバスに乗り、Britmart に到着。Britmart は City の主要な駅で、電車とバス、近くにフェリー乗り場がある。City Link という市内循環バスに乗り、ELA（オークランド大学の語学学校）へと向かう。前日に“Liquor.com”の赤い看板が見えたらボタンを押すように言われたのだが、その看板の手前でなぜかバスが右折してしまう。慌ててバスを降り、一緒に降りたサラリーマンに道を聞くと、バスが行った方向だと教えられたので、そのまま進むが、明らかに見たことのない景色だったので慌てて引き返す。既に7時50分を回っており、友人との待ち合わせには間に合いそうもない。Queen's Street（市内のメインの通り。City Link はこの道を上って下りてくる）に戻り、坂を登ると Liquor.com を発見して一安心。8時過ぎに待ち合わせ場所に到着するが友人はいない。15分まで待っても来ないのでフロントへ行くと、北海道大学の生徒はLv10だと言われる。案内された部屋へ行くと、同じく今日からのサークルの友人しかいなかった。そこに続々と人が集まり、北大の1年生や単身、留学に来た静岡の主婦の方と話す。友人も無事到着した。北大の1年生と一緒に。予定時刻よりかなり遅れて先生がくる。今日は160人の受け入れがあるらしく、とても忙しいとのこと。書類に記入し、終わると突然テストが始まる。センター試験のような問題だが、レベルが高い。筆記試験が終わるとTea Timeになり、お茶やクッキーなどのお菓子が振舞われた（今日は特別らしい）そこでは大分の人や北大の1、2年生と知り合いになった。その後先生との面接。色々な先生がいて、そのうちの一人と面接するのだが、私の先生は「How long have you stay here?」しか聞かず、すぐに午後クラスのIntermediateに決まった。午前クラスを希望していたので残念だった。その後学校についてのpresentation、IDカードの発行をし、昼食。私は、一緒に来た友人と静岡から来たちさとさん、大分から来ためばえとご飯を食べた。カフェのサンドウィッチが高かった。午後はELA近辺を先生が案内してくれるガイドツアー。人が多かったのでほとんどガイドの内容は聞こえなかった。ELAに戻り、解散。私は友人4人で携帯電話のレンタルに行き（\$20、安い）帰宅。帰ると家にホストファザーのJustinが帰ってきていたので挨拶。夕食は今日もパスタ。パスタしか食べないのかと不安になる。家族の会話にはあまり入れないが、少し話しが出来た。夕食後、子供達の宿題が始まる。娘に父、息子に母親がついて勉強している。日本では珍しい光景な気がする。娘のSophieが泣き出してしまった。Helenがなだめている間に、私はJustinにインターネットの接続や携帯電話のセットアップをしてもらった。2階のHelenにtxt（日本のメッ

セージ機能のようなもの)を送ると、“Hello. Helen and Sophie from upstairs!”と返って来た。2階に上がってお土産を渡す。どれも喜んでくれた。Sophie がキティ大好きで、キティの手鏡とハンカチをととても気に入ってくれた。ポケットティッシュケースと一緒にポケットティッシュをたくさんあげると喜んでくれた。バスルームいるとノックが。何度ノックし返してもノックされるので仕方なくドアを開けると、Sophie がキティの枕を持って立っていた。“I just want to show you.”と Sophie。とても可愛い。“Do you sleep with that?”と聞くとなぜか Justin が Yes と答える。過保護なのか私と仲良くさせる気がないのか。あまり好きになれそうにない。Helen と Justin に挨拶をして就寝。

2月19日(火)

朝6時起床。顔を洗って朝食。コーンフレークに挑戦してみたが、パンの方が美味しかった。7時20分、家を出る。Helen が私のところに来て挨拶してくれた。家を出てすぐ、忘れ物をしたことに気づき家に戻る。息子の Thomas に挨拶して再び家を出る。Britmart で友人と待ち合わせし、スーパーへ。シャンプーとボディソープを買う。入口に DVD 自動レンタル機があった。その後、前日のツアーの時に Queen's St で発見したダイソーを探す。見つからなかったので、美術館に行き、写真を撮る(まだ中には入っていない)。再び Queen's St に戻ると、ダイソーを発見。中に入ると、日本のダイソーとほとんど変わらず、置いてある商品も日本のダイソー製品と同じだった。店員さんに綺麗な日本語で「袋ありますか」「ありがとうございます」と言われ驚いた。歩き疲れたので、映画館の前で休憩していると、北大2年の耕に会う。少し話をして、耕が歩き出したので、私たちも換金所を探しに行く。耕と逆方向に進んだはずなのに再び彼に会う。3人で換金所を探す。見つからないので、学校の施設(本屋や携帯電話売り場、コンビニなどが入った施設)の銀行で換金する。レートはあまり良くなかった。銀行印に English name は?と聞かれて、ないと答えると”Iris”が良いのではないかと言われた。女性の English name は綺麗な花の名前が多らしく、Arisa と音も似ているから、という理由だった。気に入ったが、既にいろんな人に Arisa と自己紹介をしていたので使う機会はなさそう。今後海外に行ったら使ってみようと思う。換金を終えアイスクリームショップでアイスを買う。私はオレンジ&チョコレート。友人は Hokey Pokey に挑戦していたが甘い、と不評だった。個人的にはニュージーランドのアイスは美味しくて好きだ。ELA に行き、教科書を借りて昼食。サンドウィッチを買い、ELA のテラスで食べていると、ウェスタン風の女性が話しかけてくる。最初は世間話的な話をしていたので ELA の先生かと思ったが、ツアーの話我突然し始めた。どうやらツアー会社の人らしい。まだツアーがよくわからなかったので、”thank you”とだけ言っておいた。その後、初めての授業。クラスは日本人ばかりで、Brazil の女の子が一人だけだった。自己紹介が中心で 1st class は終わった。2限目では全員が日本人だった。英語を勉強してきた身としては不本意だが、仕方ない。授業後、友人とクラス変更について話をする。1週目なら、相談すればクラスを変えられるという話で、受付に行こうとした

が閉まっていた。仕方ないので帰宅。夕食はサラダとポテト、魚のプレートだった。毎日パスタでなくて安心。ポテトは丸々1個のゆでたじゃがいもだった。ナイフとフォークでの食べ方を Helen が教えてくれた。日本では手で食べるので、面白かった。子供たちはすぐ寝てしまったので、あまり話せなかった。代わりに Helen といろいろと話をした。シャワーを浴びて、書き溜めていた日記を書くも追いつけない。いつの間にか机で寝ていた。

2月20日(水)

6時半起床。昨日の反省を生かしてパンを食べる。家を出る前に Helen に会う。”Where are you going today?”と聞かれたので museum!と答えて家を出る。こういう会話ができるのは嬉しい。8時30分に Britmart に集合し、オークランド美術館へ向かう。友人はなぜか1時間前に到着していた。駅で週末に行くツアーのパンフレットを探す。たくさんのツアーがあって、どれがよいかいまいちわからない。とりあえず沢山取っておく。美術館に行くと、美術館の建物に TAMAKI museum と書いてあった。友人の名前が「環」なのでとても喜んで面白かった。私は TAMAKI ドライブという道路を通って学校に来るのだが、TAMAKI はマオリの言葉でニュージーランドという意味らしい。水に関連した意味もあると聞いたがどちらが本当か定かではない(インターネットで調べたが、わからなかった。いかんせん課題ギリギリでやっているんで...)。オークランド美術館は無料で入館でき、膨大な絵画やマオリの作品、現代アートなどがあつた。印象的だったのは、母娘が楽しそうにしている映像で、母親がタバコを吸っており、それを子供が嬉しそうに見ている、というものだった。現在、ニュージーランドでは喫煙は厳しく制限されているが、その映像が作られた当時ではまだ喫煙があまり問題視されていなかったらしい。他にもたくさんの面白い作品があり、最初はかなりじっくり見ていたが、途中で時間がないことに気づく。ま半分も見ていなかったが仕方がないので切り上げた。入館無料で良かった。その後、昼食へ。日本から撤退した Wendy's というハンバーガーショップを発見。昔、地元にあつたが、半年で閉店したので懐かしかった。”Ultimate New Zealand burger”というハンバーガーとサラダのセットを購入。9.5ドルもした。高かつたが味はとても良かった。さすが Ultimate。宿題を済ませ ELA へ向かう。1つ目の授業は中学校で習うような文法事項を中心にしていて、やや退屈だったが、その中でも新たに学ぶことはあり、日常会話で使われる現在完了を学ぶことができた。2つ目の授業では、1週間ごとにトピックが決まっている。今週のテーマは”travel”で、旅行に関連した単語や言い回しをたくさん学んだ。今日は乗り物の名前がたくさん出てきて、”van”と”truck”の違いや、”double-decker bus”(2回建てのバス、個人的にはハリーポッターに出てくるイメージ)という聞きなれない単語を学んだり、ニュージーランドはイギリス英語なので、truck のイギリス英語を学んだりした。このような発見は沢山あり、先生もとても良い先生だったのだが、周りがほとんど日本人というのはやはり辛い。せつかくお金を払って来ているので、もったいないなあとと思う。授業が終わり、買い物をしつつ帰宅。子供たちはもう食事を済ませていて、私は一人食べることに。食事

が終わると Helen がニュージーランドで観光におすすめの場所をいろいろと説明してくれた。初日に、私の部屋の机にガイドブックがたくさん置いてあったのだが、それも Helen が用意してくれたものらしい。とても親切。ホストスチューデントの受け入れに慣れているのかもしれない。3 週間は長いと思っていたが、遠出できる週末が 2 回しかないと考えると短かったかもしれない、とやや後悔。印のたくさんついた地図やパンフレットをもらって部屋に戻る。就寝。

2月21日(木)

朝 6 時 30 分に起床。朝ごはんは何時も通りのパンを一人で食べた。ペットのミャオミャオが家の中に入りたがっていたが、私は鍵の開け方がわからなかったので中に入れてあげられなかった。ごめんね。支度に少してまどったが、なんとか予定通りのバスに乗ることができ、朝 9 時には Britmart に到着した。既に友人は集合場所にいた。今日は土日のプランニングをするつもりだったので、途中のお土産屋さんをいくつか周りながら ELA に向かった。ELA の 10 階で、無料で飲めるミロ(ココア)やコーヒーを飲みながら自動販売機で購入したポテトチップス、そして今日の朝にコンビニで買っておいた、昔オーストラリアに行った時に目をつけていた TIMTAM というチョコレート菓子をつまみつつのプランニングをした。結果、土曜日にワイヘキ島へ、日曜日にデボンポートと時間があれば動物園かミッションベイに行くことにした。どの場所も前に一度オークランドへ来たことのある先輩や同期に勧められていた場所だった。ちゃんと当日までに調べておくべき情報などを分担もしたし完璧なはず…。プランニングの後にお昼ご飯を食べに Queen's street へ。インドカレー屋さんでラム肉のカレーを食べた。少し辛かったがそれくらいがちょうどいい。ELA のクラスは何時もと同じ感じだった。気持ちがわからないでもないが、日本語をクラスにおいて使うのだけはいただけない。なんとかならないものか。2 限のクラスはもともと好きだが、クラスメートが日本語でしゃべるせいか、やはりおもしろくない。少しイライラしつつもクラスを乗り切る。放課後は Queens street にあるデパートへ。可愛い雑貨などが沢山あって楽しかったが、すぐに閉店の時間が来てしまった。やっぱりニュージーランドはお店が閉まるのが早い。仕方ないので帰ろうとするも、バスが一時間後まで来ないことが発覚。デパートに行っている場合ではなかった。せめて時刻表を確認しておくべきだった。親切な友人と一緒にバス停で待っていてくれたので非常に助かった、が、なんと予定の時間にバスが来ていたのに、来ていないと錯覚してしまい(バスの番号が違うと勘違いしてしまい)もう一時間待つことに。友人は私に「このバスなんじゃない?」と聞いていたのに... しかも友人曰く、一度バスの運転手さんがバスから降りてきてバスの番号を言っていたとのこと。自分の気の抜け様に呆れて言葉もでなかった。不幸中の幸だったのは友人が本当に親切で、文句一つ無く一緒にバス停で待っていてくれたことだ。本当に感謝です、有難う。9 時 45 分発のバスに乗り、10 時 20 分位には家に着くことができた。既にお風呂に入れる時間を過ぎていた(ホストファミリーの家のルールで、シャワーは 10 時まで)なのでお風呂は

明日の朝入ることにする。Helen がリビングで待っていてくれた。心配させてしまったかもしれない。食事をしながら、今日あったことなどを話す。ホストマザーがキープしておいてくれた夕食を食べ、自分の部屋でメールやフェイスブックのメッセージを確認。明日も早くから活動。大変だが、時間がもったいないので仕方ない。就寝。

2月22日(金)

朝6時半、起床。今日は11時から ELA の Conversation club に行く予定だったので直接 ELA に行った。いざ行ってみると、予想はしていたがほとんどの人が日本人であった。聞くところによれば ELA の生徒の多くは日本人らしいので、仕方ない。内容はトピックを3つ各々が決めて、その中から一つを他人に話し、時間が来たら他の人に話すということを繰り返すというもので、私の所属する ESS で似たような活動を何度もしたことがあった。正直新鮮味がなく(せめて外国人ならばよかったのだけれども)恐らくもう参加しない。これだったらもっとニュージーランドでしかできないこと、端的に言えば観光をしたいと思ってしまった。カンバセーションクラスの後には北大の人達でお昼ご飯を食べることに。私が自信満々にテイクアウトできる店があると言って Queen's street に出たが、見つけれなかった。皆ごめんなさい。結局\$5の丼屋さんを見つけて、そこでお昼を買った。お米はちゃんとしたジャポニカ米で、丼の上ののっている具もしっかりとしたもので、これで\$5なら安い、といった感じだ。(結果オーライ、ということにしたい)ご飯は ELA のスチューデントラウンジの、外のテーブルで食べた。青空の下とても美味しかった。いつものように授業に出て放課後に。午前授業組のれおん達が中国の旧正月のお祭りに皆で行こうと提案してきたので、土日を使って行こうと思っていたが急遽予定を変更して行くことに。場所はアルバートパーク。(明るい時間は安全らしいのだが暗い時間は危ない公園だという話を聞いたことがある。こちらでつくった友人の学校の人が、夜に集団ランチにあって大怪我をしたうえに財布とパスポートをとられたらしい)凄いな人の数だった。中国人に限らず西洋人から東洋人まで大勢おしかけていた。中国っぽい置物やモニュメントが沢山あって、中国の雰囲気が出ていた。出店も沢山出ており、去年中国に短期留学した友人はとても懐かしそうで、若干ハイテンションになっていた。私はマンゴージュースを買ったのだが、とても美味しかった。友人が買ってきた麺やチキンレッグのようなものも食べた。非常好(中国語でとってもよい、という意味、友人が教えてくれた)だった。それと目玉商品だったのは半分のスイカのうえにカップアイスクリームが4つものかった食べ物だった。凄いボリュームで、量がとても多かったので皆で少しずつ食べた。時間もおそくなってきたので帰ろうとすると、北海学園大学 ESS の知り合いとばったりであった。バックパッカー的な旅行でニュージーランドに来ていたことは聞いていたけれども実際に会うとは思わなかったのでとても驚いた。こういう出来事が起こると、意外

と世界は狭いのかなあと感じてしまう。バスの時間に間に合うか際どい時間だったのでバス停まで走ったが、残念ながら間に合わず1時間待つことになった。幸い友人も一緒にバスを待っていたので助かった。家に帰るとホストファミリーに今日のことを聞かれたので少し話をした。Thomas と Sophie は既に寝ていた。お祭りの写真でもみながら話しをしたかったので、少し残念だった。疲れたので早く寝る。

2月23日(土)

今日はワイヘキ島に行った。今日は環と七美、健太の4人での観光だ。朝8時30分に Britmart のフェリー乗り場に集合だったが、遅刻。友人が買っておいてくれたチケットのおかげで9時のフェリーに乗れた。ワイヘキ島までは45分程度で到着する。途中デボンポートで停まるというフェイントがあったがただの給油だった。(皆とても焦っていた。特にチケットを買ってくれていた環が一番焦っていた(笑))島につくとすぐバス停があった。まず初めに、オステンドという場所で土曜日の朝にだけ朝市があるとのことだったのでオステンドへ。前日に Justin が教えてくれたのだった。古本や古着からお洒落な雑貨や石鹸、ハーブ食品まで様々なものがあった。私と七美は石鹸とタルトを出店で購入。男性陣二人はホットドッグを買って騒いでいた。その次にオネタンギビーチへ。静かで広く、綺麗なビーチだった。環のホストファミリーの息子さんはつい2週間前にここでプロポーズをしたそうだ。確かにロマンチックな雰囲気を出すにはもってこいの場所かもしれない。貝を拾ったりひとしきりはしゃいだりした後に海沿いのお店でお昼を食べた。何時も通りのサンドイッチだった。サンドイッチは何度も食べたが何度でも美味しい。七美のサンドイッチはナイフでも中々切れないようで大変そうだった。そのあとオネロアへ。オネロアもビーチだったが、オネタンギビーチと比べ活気に満ちていた。恐らくフェリー乗り場から近いためであろう。海岸沿いにあるいたり岩場を登り歩いたりして時間を過ごした。そのあと雑貨屋で七美が妹へお土産を買った。皆でワインも試飲した。(後で結局買いました(笑))その後フェリー乗り場付近のカヤック場へ。しかし関西大学の団体客がいたため2時間後に出直すことに。ここで七美がホストファミリーと用事があるとのことだったので一人フェリーに乗って帰宅した。ビネヤード(ワインのブドウ畑)に行きたかったが、近場のビネヤードは何処も結婚式(!)で使われていて入れない、とフェリー乗り場の人が教えてくれた。遠くのビネヤードへ行けるほど時間がなかったのでビネヤードは断念した。残念... 気を取り直して再びオネロアへ。私もお土産を物色し、家族へキャンドル2つとさっき試飲したワインを自分へと買った。カヤックの時間になったのでカヤック場へ戻りカヤックにトライ。3人だったので2人と1人に別れることに。私は下手だったので2人乗りに。ぐるりと1時間位をかけて海岸を1周した。とても楽しかったがびしょ濡れになった。着替えを持ってきてよかった。カヤック場の人の中に日本人女性がいたので少し話していたら帰りのフェリーがくる。オークランドに着いたらオークランドで有名なアイスクリーム屋さん(モーベンピック)に行った。美味しくて量もたくさん。そのあとバスに乗って自分の家

へ帰宅。キープしておいてもらった夕食を食べたりお風呂に入ったりしたらなんだかんだいい時間に。とても疲れたので、早く寝る。明日はデボンポート、楽しみ。

2月24日(日)

今日はデボンポートへ。朝6時30分起床。デボンポートとは昔ニュージーランドが戦争をしていたころにニュージーランド本土を守るための要石的な役割を果たしていた島である。だから、デボンポート内には海軍記念博物館や高い丘(小さな山)がある。8時30分に Britmart のフェリー乗り場で友人と集合。昨日のワイヘキ島の時の経験でチケットはスムーズに買えた。フェリー15分もするとデボンポートに着く。毎日デボンポートからフェリーで学校にくる人もいるという。私の先生がそのうちの一人。うらやましい。フェリー乗り場に着くと近くに小さなビーチがあったので少しだけそこで時間を潰す。海岸沿いを歩いていると犬が沢山散歩をしていたり、朝なのにボートに乗っている人がいたりした。いい光景。海岸沿いを歩いていくと海軍記念博物館に着いた。有料だったのと、その時はデボンポートの歴史を知らなかったので入らなかった。今となっては後悔…。その後は小高い丘を目指して島の内陸部へ。若干、道に迷う。しかし道に迷ったおかげ猫に会えたり大きな公園によったりできたのでよしとする。(この公園、動物禁止だったのだが住民は平気で犬を散歩させていた(笑))小高い丘は中々急な斜面だった。犬と一緒に登っている人もいた。日課なのだろうか?だとしたらとても健康的。苦勞して登っただけあって、丘の上からの景色はとてもよかった。オークランド本土が一边に、なんの遮蔽物もなく見渡せるので、もしニュージーランドに行く人がいるなら、本当にお勧め。20分程頂上でダラダラしたあとにフェリー乗り場へ行くと馬2匹の馬車がいた。大迫力だったが流石に乗らなかった。学生ですので。オークランド本土へ戻ったあとはバスでミッションベイへ向かった。しかしミッションベイの一つ前のビーチで勘違いして降りてしまった。しかしこのおかげで計らずしも毎日通学時にバスで通っていたタマキドライブを歩くことができた。ミッションベイまでの道は中々に長かった。途中にとっても長い橋のようなものが海の上に伸びていた。釣り堀的なものだったらしい。(海に飛び込んでいる人もいた、逞しい)途中タマキヨットクラブというのもありまたしても友人が喜んでいて。ミッションベイにつくと今までのビーチとは比較にならない数の人が泳いだりビーチで戯れたり、スポーツをして楽しんでいて。私達は水着がなかったので泳がずに眺めを楽しんだ。ミッションベイ周辺のお土産屋さんを見て回ったがあまり冴えない感じだったので何も買わず、夕食をとりオークランド郊外へ。友人の誕生日祝いにステーキを食べに行った。30ドル超、驚く。ただ、穀類やサラダが食べ放題で、ステーキの種類も自分で選べたので、その点が救い。誕生日祝いということで、値段はよしとする。友人の選んだステーキが大きすぎたため食べきれなかったが、店の人に言ったら持ちかえりように包んでくれた。(この時友人が店の人に I'm full と言ったのだが発言が悪くて伝わらなかった。私が言ったらわかってくれた笑)友人は誕生

日祝いを喜んでくれたようでよかった。明日から学校なのが鬱々とする。家に帰り、Helenと少し会話し、就寝。

2月25日(月)

今日は休息日ということで、特に予定は入れず、のんびり家を出る。バスで同じクラスで関西大学の拓也と会う。彼も今日は休日らしい。遊ぶのにも体力はいる。1週間遊び続けたので、休憩は必要だ。互のホストファミリーや観光した場所について話す。Britmartからは歩いてでも学校に行けるのだが、2人とも疲れていたため、City Linkに乗るが、朝の渋滞のためか進まない。これなら歩いた方が早いのではないかと思うが楽が出来たのでよし。ELAに到着し、拓也はパソコン室、私はLv.11(11階)で宿題をする。だんだんと友人が集まって、皆で宿題をした。11時からは、自由参加のワークショップに出る。今日はSpeaking & Listening。担当の先生は私の最初の授業の先生で、とても楽しく教え方の上手な人。オリンピックにまつわる話を、数字に注目しながら聞き取っていく。とても面白いし、リスニングの練習になった。語彙も増えるし、こういうのは積極的に参加していきたい。サークルで使えそうな内容だったので、新学期にぜひやりたい。リスニングの後はスポーツについてのConversation。韓国人の男性と話したが、日本人ばかりの環境で一人ここにいるのはすごいなあと思った。ワークショップのあとは北大の友人たちと昼食。菓子パンを買ってみたが美味しくなかった。クッキーもみんなで買ったが、東京銘菓ひよこtの劣化版のような味がした…。その後は授業。2時間目、今週のTopicは“Gender”。男女の違いや仕事の分担についてブレインストーミングをしたりDiscussionしたりした。Houseworkを女性ばかりがするのでなく、夫婦でシェアすべきだ、という話もあり、このような女性の問題は世界共通なのだ、と思った。授業後、ホームステイの評価シートを提出する。Very goodにしたが、ビジネスライクなのでgoodくらいにしておけば良かったかと思うが、親切であることに違いないので結局very goodにしてしまった。いつもより早い7時のバスで帰宅。すると、途中からバスがいつもと違う道を走っていることに気づく。どうやら間違った番号のバスに乗ってしまったらしい。気づくのがだいぶ遅かったが、とりあえずバスを降りて海岸沿いに来た道に戻る。20分ほど歩くと、家から最寄りのKohimaramaビーチに到着。見覚えのある道を曲がる(が、自信はない)。10分ほど歩いて、ようやくたどしい道だと確信が持てた。結局家に着いたのは8時近くになってからだった。子供たちはもうすぐ寝るところだった。間違ったバスに乗ったことを話し、食事。今日のメインはソーセージ。Helenが途中から電話をしていたので、話す人がいなかった。Justinはずっとパソコンをしている(Justinは私とあまり話そうとしない。ホストStudentの相手はHelen担当らしい)。仕方がないので、食事を済ませすぐ部屋に戻る。シャワーを浴びて就寝。

2月26日(火)

朝 6 時半、起床。8 時に **Britmart** 集合だったが、友人のバスが遅れたため、**Queen's street** で落ち合うことに。しかし、互いを見つけられず、友人のバス停まで来てしまった。慌てて電話すると、どうやらすれ違ってしまったようだった。無事友人に会い、**ELA** へ。同じクラスのけんた、サークルのゆかこ、環と 4 人で **Auckland Domain** へ行く。ドメインは大きな自然公園で、中には病院や植物園、博物館がある。朝のドメインは静かでとても綺麗だった。**KIOSK** というカフェがあったが中には入らなかった。公園を散策し、博物館を目指す。開館までまだ時間があったので、植物園に行くことに。**Winter garden** という名前にも関わらず、南国の色鮮やかな植物が多かった。ひとしきり見て回るうちに開館したので、いざ博物館へ。この博物館は **ground, 1st floor, 2nd floor** があり、地上階がマオリの展示、1 階が海や火山などの自然に関する展示、2 階が戦争の展示だった。ゆかこが 12 時には **ELA** に戻りたいとのことで、時間がなく、全てを見ることはできなかった。全部見ようと思ったら、おそらく半日以上はかかるような場所だと思われる。始めにマオリの展を見ていたが、時間がなくなってきたので途中から 2 階に移動して戦争の展示を見た。第二次世界大戦期の展示を中心に見た。興味深かったが、日本の戦争関連の博物館（例えば沖縄のひめゆりの塔など）のような、情に訴えるような、一般人の被害などの展示は少なく、軍隊や飛行機の展示などが多かったように思う。展示の中には、日本の文書などもあり、第二次大戦の記録は、世界的に共有されているのだな、と実感した。第一次大戦の展示もあったのだが、そちらは時間がなくて見るができなかった。残念。ドメインを出ると、エントランスに日本人のツアー観光客がたくさんいた。異国の地で見知らぬ日本人に会う、というのは変な感じがした。**ELA** に戻り、ゆかこが教科書を借りて、昼食。コンビニと併設した中華料理屋に行った。おかずが 2 種類とご飯がついて \$7 で、物価の高いここではかなり安く食事ができ、味もまあまあだった。その後はいつもどおり授業。2 つ目の授業では、人が一気に増えてしまった。台湾の男性が一人いたがあとは全員日本人だった。放課後、**Britmart** まで友人と帰る。いつも通っていたクッキー屋さんでクッキーを買った。今日が友人の誕生日だったので、ケーキ屋さんでケーキを買ってお祝いした。友人は、彼のホストファミリーでパーティーがあるかもしれない、と期待していたので、ひらかれるといいなと思う。帰宅し、食事をする。**Helen** と **Justin** が私の目の前に座っていたのだが、私の背中越しにテレビを見ながら仕事をしていた。2 人とも無言でテレビに釘付けだったので、全く話しかけることができず、孤独だった。この家族は本当にビジネスとして受け入れをしているのだなあとと思う。親切な人たちではあるが、悲しくなった。食事を終え、早々に部屋に戻る。明日はもう一度、オークランド美術館に行くのでまた早起き。シャワーを浴び、就寝。

2月27日(水)

今日は朝 6 時 30 分起床、支度をして、8 時 30 分に Britmart 集合。しかし友人のバスが少し遅れたため集合時間が若干遅れた。今日はこの前最後まで見ることができなかったオークランド美術館に行ったあとにワークショップへ行くつもりだったのだが、オークランド美術館がオープンするのが 10 時、ワークショップが始まるのが 11 時だったため、移動時間も考えると無理だと判断。また別の日に残りを見に行くことにして、早めに ELA に行って今週末の予定をたてることにした。予定はホストファミリーからもらったロトルアのガイドブックと街のインフォメーションセンターから持ってきたロトルアツアーのチラシ、それと ELA で紹介しているツアーのチラシを見比べつつどの方法で行くのがベストかを調査した。結果的に恐らく ELA で紹介しているツアーが一番よいのではないかということになった。(一応ガイドさんの話を聞きに行こうということにはなった)ワークショップの内容はニュージーランドの人口統計調査(センサス)の話だった。ニュージーランドでは数年に1度のペースで、全国一斉に人口調査をすることになっているとのことであった。英語の勉強をしつつニュージーランドのことを学べるこのワークショップはなかなかお得だと思った。授業はいつも通り。授業中に日本語があふれるのは相変わらずだが、今日は特にひどく、私が英語で話しかけても日本語で帰ってくるので、本当にイライラした。正直もう諦めているが、お金を払って来たのだから、なんとかしたい。放課後は北大組でスカイタワーへ行った。タワーに行く前に夕食としてピザを食べた。スモールサイズで 6.5\$ だったが、スモールサイズといってもかなりのボリュームだったので安い方だ。全部で 10 人ほどいた。大勢で食べるご飯はやはり美味しい。タワーには学割のおかげで安く(\$18)中に入ることができた。タワーからの景色はとてもよかった。夜景を見たいということで、皆で日が沈むのを待った。夕焼けのオークランドもなかなか綺麗。夜景になる前に、ニュージーランドに来たばかりの女の子 3 人は夜道が怖いとのことで先に帰っていった。夜景はとても綺麗だった。皆で集合写真を撮った。いい思い出になりそうだ。皆が帰る雰囲気になったので 9 時前にはタワーを出た。しかし皆は 9 時 15 分くらいにバスがあったが、私は 45 分までバスがなかった。しかし、友人がわざわざ待ってくれたので退屈せずにすんだ。ありがたい。若干胃が痛かったので飲むヨーグルトをスーパーマーケットで買った。しかし、液体でない普通のヨーグルトだったのでプレーンで食べるのが少しくつく、明日以降に朝食として残りを食べることにした。家に着いたのが 10 時を過ぎてしまっていたのでシャワーには入れなかった。明日の朝に入ることにする。(朝シャワーだと少し早起きしないといけないので少し鬱。)今日も、Thomas と Sophie と話す時間がなかった。残念。ただ、Helen が会話する時間を作れなかったことを謝ってくれ、30 分ほど会話できたので良かった。服を買うのにおすすめの店を教えてくれた。沢山話して楽しかったが、疲れた。明日は環と健太、ゆかことパーネルに行く。お洒落な雰囲気な場所みたいなので楽しみ。

2月28日(木)

今日は何時よりも少し早く朝6時に起床した。9時30分に Britmart 集合だったので8時40分位のバスに乗った。ゆかこと環はバスが遅れたために10分遅刻した。何人かお金を引き出したかったのでATMでもおろせるという情報をもとにおろしてみることに。初めに環がチャレンジしてみたが上手くいかなかったので私もチャレンジしてみた。しかし引き下ろせなかった。それどころかよくわからないボタンを押してしまった。不安なので急遽そのATMの銀行の支店に行くことに。銀行の店員さんに事情を説明したところ特に問題はないようで、お金が何処かに振り込まれたりもしていないとのことだったので一安心。それと同時にその店員さんは私達のカードでは、システム的に海外ではお金を引き下ろせないということも教えてくれた。仕方がないのでお金をおろすことは諦めた。次にニューマーケットとパーネルに行く前に、今週末のロトルア旅行の前に水着を手に入れたかった(先週ロトルアに行った友人によるとロトルアには有名なポリネシアンSPAがあるらしいのだが、私は水着を日本から持って来ていなかった)ので、ホストマザーに教えてもらった洋服屋へ。安くてデザインがよいというお店を見つけて中に入った。直ぐに決めるつもりだったが気に入るものがこれとってなかったのと、つつい色々なのを見てしまい、結局買うまでに1時間かかってしまった。私とゆかこは買い物をしていたので問題なかったのだが健太と環はずっと待っていることになってしまった。店内に設置されていたアイパッドで遊んでいたのも問題ないとのことだったが、本当に申し訳ない。買い物が思いの外少し長くなってしまったためニューマーケットは諦めてパーネルにのみ行くことにした。パーネルへは Inner link を使って15分位でついた。City link とは違い無料ではなかった。パーネルに着いて少し歩いていると、お洒落なチョコレートブティック (!) があったので入ってみることにした。綺麗なチョコレートが沢山あったので写真を撮っていたら店員の人に撮影禁止だと注意された。デザインが盗まれることでも警戒しているのだろうか?結局誰もチョコレートは買わずに、再び町並みを堪能しつつ歩きだした。すると大きな教会を見つけた。入ってみると綺麗なステンドグラスの窓や大きなパイプオルガンがあった。余り時間がなかったので10分位で教会を後にした。お昼ご飯は食べる時間がほとんどなかったので教会の向かいにあったパン屋さんでテイクアウトすることに。皆サンドイッチを買った。店員は私達が日本人だと知ると、東北のことを心配そうにたずねてくれた。社交辞令なのかもしれないがなんだか嬉しかった。サンドイッチは高かっただけに美味しかった。お昼休みにロトルアツアーの人と約束をしていたのだが間に合わなさそうだったので友人に待っていてくれるように伝えてもらった。おかげでロトルアツアーに予約ができて助かった。しかし授業には少し遅刻してしまった。何時も通りのクラスを終え帰ろうとしたら、今週末に一足先に日本に帰る北大組の子のためにフェアウェルパーティーをすることだったので途中まで一緒にいた。用事があったので途中で抜けて、バス停までの途中にあるお土産屋さんでキーホルダーを買った。9時前には家に着いた。子供たちは寝てい

たが、Helen とたくさん話が出来た。インスタント味噌汁が出てきて、その流れから家にある日本食の話をした。寿司を作るのが好きらしく、家には寿司の酢や海苔があり、ジャポニカ米も寿司ように用意してあった。今までのホストスチューデントが残していったお土産もたくさん出てきたが、迷惑そうなものも多く、自分のお土産が大丈夫だったか心配になった。忙しい一日だったが最後はなんだかいい感じに終わることが出来てよかった。明日はいよいよロトルアツアー！

3月1日（金）

朝8時、起床。午前中に水族館に行き、午後から学校を休んでロトルアへ行く予定。しかし、シャワーにも入っていなかったのも、遅刻する予感。案の定20分位遅刻した。友人の一人が他の人を先に中に入れて、自分だけ外で待っていてくれた。中に入ると皆が入り口付近にある南極探索の車で、集合写真を撮っていて直ぐに合流できた。最初の生き物はペンギンだった。泳いでいるペンギンや冬眠しているペンギン、カメラを顔で追いかける子や直立不動の子など沢山いて、とても可愛かった。そのほかにも沢山の魚（鮫やエイなどなど）がいた。一番凄かったのはタツノオトシゴで、初めてみたし色鮮やかで綺麗だった。水族館曰く、世界で唯一赤ちゃんのタツノオトシゴを飼育しているとのことだったが、本当かどうか正直よくわからなかった。人形好きの友人はタツノオトシゴの人形を買っていた。それともう一つ凄かったのは、入り口付近にあった、壁が回転する通路。壁が回転しているのに自分の足場が回転している錯覚に陥る仕掛けで、とてもおもしろかった。大王イカの死体も展示してあった。初めて見たのでその大きさと存在感に圧倒された。水産学部の友人が見たらはしゃぎまわるだろう。水族館の後は、バーガーキングで昼食をとる。バーガーキングはドリンクバー制度（！）で、お腹いっぱい食べた。その後ELAに行き、ロトルア行きのバスの集合時間までスチューデントラウンジで関西大学の友人達と時間を潰した。私のクラスメイトのゆかが、自分の部屋が火事になるだなんていと騒いでいた。面白い子。バスの集合場所は少しわかりにくかったが、無事に着くことができた。いざバスに乗るとしばらくバスが出発しない。何かかと思って待っていると、バスの中に一人間違えて乗っている人がいるとのこと。まさか、と思っていると、私の友人だった。違うツアーに申し込んでいるらしい。正直焦ったが、電話でツアー会社側と交渉した結果、無事に予約コースの変更ができ、無事に一緒に出発できたのでよかった。バスには外国人が4人位とEF(ELAとは別の語学学校)の日本人が沢山乗ってきた。結局8割日本人だった。途中で放牧された馬や羊、牛などを眺めながらバスに揺られて5時間、宿泊先のユースホテルに到着。協議の結果友人一人と同じツアーの女子二人と部屋をシェアすることとなった。途中で寄ったスーパーマーケットで買った、サラダやパイ、ピザ、それとステーキを食べた。他の宿泊者のマナーの悪さが目についたが、ご飯を美味しく楽しく皆で食べられたのでよしとする。こちらのスーパーマーケットは大きいし、カートも凄く大きい。それにしてもあれだけ買って一人当たり\$8はとても安い。明日はバスの中で予約したアグロドーム

(動物達と戯れる牧場)とポリネシアンスパに行く予定。とても楽しみ。一緒に来たなつみ、ゆかこと1時過ぎまで話してしまった。明日は早いので、もう寝る。

3月2日(土)

朝6時起床。支度をしてから朝ごはんのロビーへ。すでに友人数名が朝食を用意してくれていた。そこに私のクラスの友人が合流して驚く。学校で外泊を禁じられているにも関わらず単身で来たらしい。すごい行動力。朝食はドライバーが用意してくれたแฮมやチーズなどを使ったサンドイッチとヨーグルト、それと昨日買ったサラダの残り。女子は十分そうだったが男子達は足りなさそう。朝食の後すぐにバスに乗り込み観光に。最初に行ったのはジオサーマルパーク。ここは天然の硫黄やひ素、酸化銅などの作り上げた洞窟や池、滝などを歩いて見て周れる公園である。臭いはきつかったが岸壁や池の色合いが鮮やかでとても綺麗だった。最後の方は時間がなかったのでダッシュすることになった。いい汗かいたけど、疲れた。その後はガイザーを見に行った。沢山の観光客がいた。ガイザーとは温泉水が吹き出す穴で、ガイドの人がある粉を穴の中に入れることで人口的に活動を活発にさせることが出来る。水の噴き出す勢いは凄まじく10メートル位は噴きだしていた。更にドライバーが大きな滝にも連れていってくれた。大迫力の水流で大満足。私が思うに、このツアーは色々な所に連れていってくれるので、かなり当たりだったと思う。その後は先日予約していたアグロドームへ行った。大きな開放型のバスに乗って牧場を回った。イメージとしてはサファリパーク。牛、鹿、アルパカ、羊、様々な鳥達がいた。得にアルパカと羊には直接餌やりができ、とてもかわいかった。友人の一人はアルパカの首に抱き着いていて凄かった、羨ましい(笑)餌をあげようとする一部羊達はのしかかりをしてきて痛かった。しかし何よりも凄いのは、ガイドの人がそういう羊に遠慮なしに蹴りをおみまいしていたことである。まあ、羊はフカフカの毛があるから衝撃を吸収するのかもしれないが、それにしても痛そうだった。途中でキウイフルーツからつくったジュースとワイン、それと特製ハチミツを食べた。どれもとてもおいしかった。この時もガイドさんはたくましく、飛び回る蜂を踏み潰していた。ハチミツを採取しているのに踏み潰していいのか、という疑問は置いておく。因みに、ガイドの人はなんと静岡県に昔15年間住んでいたらしく、流暢な日本語で親しく接してくれた。みんなとても気に入ったので皆で一緒に写真を撮った。牧場の次はスパに行った。世界でも5本の指に入るスパだとのことだったが、正直大したことなく、拍子抜けした。まあ湖の景色はよかったし、ゆっくりできたのでよしとする。スパで2時間程くつろいだ後に湖へ。とても大きな湖だった。地球の歩き方に載っていた湖の近くのレストランで夕食を食べた。味は良かったが値が張り、少し量が少なかった。食べているとレストランの前の道で人々が踊りはじめた。流石海外といったところだろうか。その後、友人と一緒にスーパーマーケットへ行き、水や夕食の買い出しへ行った。途中ストリートボクシングのようなものが行われていて少し怖かった。夕食とは別腹で皆と一緒に、一人遅れて到着した友人を混ぜつつ昨日買っておいたケーキを食べた。

ケーキの後に残って皆でしばらくお喋りをした後、それぞれの部屋にもどり、部屋でさらにお喋りしたりお風呂に入ったりして一日を終えた。とても楽しい一日だった。明日はいよいよ、一番の楽しみのワイトモ洞窟！

3月3日（日）

朝6時30分に起床。支度をして8時頃にはロビーへ朝食を食べに行く。朝食は前日と同じくサンドイッチだった。男子達はサンドイッチを2つ食べていた。流石に食欲旺盛ですね。残っていたヨーグルトも食べた。朝食後に荷物をまとめて一度部屋へ戻る。荷物をまとめた後にバスへ移動。友人数名が少し遅れてきたので心配する。今日は最初にマオリの村（マオリビレッジ）を訪ねた。ワカレワレア村という名前の村だ（日本人は読むのに苦労しないが外国の人達は読むのが大変そうだった。マオリの人達の言葉は日本語の音にととても似ている。タマキもしかり）。その村では今も、観光地を兼ねながらもマオリの人達が生活を営んでいる。実際私達を案内してくれたツアーガイドの方もその村で生まれ育ち、今はその村のガイドさんとして働いているとのことだった。村の入り口には橋がかかっている観光客が投げたコインを村の子供達が橋から飛び込んで拾い口の中に貯めるという風習がある。事実、帰りにもう一度橋を渡ったら子供達がコインを要求してきた。友人の一人が10セントコインを川に投げ入れたら数人の子供が飛び込みコインを拾っていた。物乞いのように複雑な感じもしたが、これも子供達にとってはある種のビジネスなのだと感じた。村の中に入ると天然の温泉やそのお湯を利用した洗濯場所、そして地面から吹き出す蒸気を利用した蒸し器などがあつた。ガイドさんによると天然の蒸し器はマオリの人達にとって切っても切れないものらしい。ガイドさんの話しを聞いている最中に村の人が調理しに来たのには驚いた。村の中は蒸気のおかげで暖かく立っているだけで足の裏がポカポカしてきた。ツアーの最後には、マオリの伝統の歌や踊りを披露してくれた。ラグビーの試合の前に踊られるので有名なハカも見ることができた。大迫力だった。最後に、踊っていた人達と一緒にマオリの踊りに特徴的な、舌をだしたポーズで写真を撮った。その後、このツアーで一番楽しみにしていたワイトモの洞窟へ。ワイトモの洞窟には世界中でここにしか棲息していない土蛍がいて、その光のなかをボートで進んでいくというものであつた。この蛍は普通の蛍とは逆で、幼虫の時に餌を得るために光を発するとのことである。その幼虫の発する光がととても神秘的な雰囲気を作り出す洞窟だった。（成虫になると口がなくなるらしく、なにも食べられずに衰退して死んでいくらしい。なんだか哀しい）ただしその生態系を保つためか写真撮影は一切禁止だった。残念だが仕方がない。代わりにお土産屋さんでポストカードを買った。せこい商売だ。帰りのバスで友人は007を見ていたが、グロテスクなのが苦手なのと疲れていたのとで私は眠っていた。友人と話をしつつ、気付いたらオークランドについていた。なんとなく家に帰りたくなかったので、友人とQueen's streetで時間を潰した。それでも夜の9時30分には家についた。ロトルア旅行は非常に楽しく、もう週末がないのだと思うと悲しくなるが、残り1週間、悔いのないように頑張っていこ

うと思う。明日は早速テスト。なにも対策をしていないので心配だが、今更なので諦めて、就寝。

3月4日(月)

今日は朝何時に起きたか覚えていない。(7時よりは前だったと思うのだが...)9時に友人と Britmart に集合だったので8時過ぎ位のバスに乗った。今日はタマキ美術館の見残していた展示物を見物する予定だった。タマキ美術館が開くまでは洋服屋さんや雑貨屋さんを回った。そんなことをしつつ、10時のオープンから美術館入りしたのだが又しても時間が足りず全ての作品を見ることはできなかった。展示物はやはり現代アートが多く、不気味な雰囲気な作品も多くあった。機会があったらもう一度こよう、ということになりワークショップに出るため ELA に向かった。ワークショップでは恐らく今日の月曜日のテスト対策であろう比較級の勉強をした。そんなこと知っているよと思って参加していたが、意外と知らないことが多くて驚いた。緑が多い、は greener で良いらしい。空がより青かったら bluer。面白い。勉強になった。ワークショップのあとは友達二人と一緒にコンビニへ昼食を買いに行った。近くのカフェでトルティーヤを購入した。店で温められた状態で売られていたので温かく美味しかった。サンドイッチよりももしかしたら美味しいかもしれない。ただサンドウィッチの方が野菜をとれるという点でトルティーヤよりもいいとも思う。それと、こちらの食パンは胚芽やライ麦が入っていて美味しいので、やはりサンドウィッチが優勢。今日のクラスは前々から ELA 側から通知されていたように授業ではなくテストが行われた。特に対策もしていなかったのが不安だったが、正直それ程難しくはなく、それなりの手応えがあった。(テストはスピーキング、リスニング、ライティング、グラマー&ボキャブラリー、それとリーディングのパートに分かれていて、合計3時間強かかった)ただスピーキングのテストだけはペアの人ばかり話していて、彼が質問をしてくれなかったのが(自分が頑張って積極的に話すべきだったのだが...)自分が余り話せる機会がなかったのが上手くアピールが出来なく、出来が心配である。しかもスピーキングテストは皆が終わるまで帰れなかったのがテストが終わったあとに他の人が終わるのを待っている時間がとても退屈だった。(先生が用意したゲーム感覚の英語教材もあったが皆、直ぐに飽きてしまい続かなかった) 放課後はよく行動を共にしている友人が他の友人と予定があるとのことだったので、久しぶりに一人行動をした。スーパーマーケットによってチョコレートを沢山買ったり、お土産屋さんで貝殻のアクセサリ等を見て回ったりした。バスにはいつもより早く乗ることが出来たが間違えて自分の降りるバス停の一つ前で降りてしまった。降りたバス停の周りではサッカークラブらしき少年達がサッカーをしていて、他にも犬と一緒にジョギングしている人達が沢山いた。いい光景だった。家には7時30分には着いた。ご飯を食べながら少しホストファミ

リーと今日のテストの話をした。ペットのミャオミャオと遊んだり、シャワーを浴びたりしたあとにパソコンを見ると寮の友人であるしーちゃんからメッセージがきていた。彼女は今週からニュージーランドに留学に来ていたので、一緒に遊びに行こうという話をしていて、その傍らでこの旅行記を書いているのだが、テストのせいか、なんだか疲れて眠い。眠ってしまわないか心配だ…。

3月5日 (火)

今日はしーちゃんとサークルの友人であるゆかこ、環とで動物園に行く予定だったのだが、昨日の夜、しーちゃんに連絡する前に寝てしまったため、早朝4時半に急いでメールをした。しかし、予想通りしーちゃんはそのメールを見るができなかった。(集合時間の時にまだ寝ていた)しーちゃんは理学部生物学科で、動物がとても好きなので、申し訳なきでいっぱいだった。するとそれを聞いた環が機転をきかせてくれた。動物園の近く(同じバス停で降りる)に MOTAT という乗り物博物館があり、去年オークランドに留学で来た友人の勧めもあったので明日 MOTAT に行くことになっていたのだが、そこへ今日行こうということであった。しーちゃんを除く皆が明日 MOTAT に行くつもりだったのとバス停が同じだったのとで急遽 MOTAT へ行くことに。バスの運転手さんがとてもフレンドリーで MOTAT の最寄り駅をわざわざ教えてくれたので、迷わずに降りることが出来た。しかし開園まで時間が1時間以上あったので、MOTAT の近くの有名な湖へ行っただ。何かのイベントが近いうちにあるらしく、沢山のテントの骨組みがあった。この湖には10数種類もの鳥達が暮らしているようで、どの鳥も日本では見ないような、特徴的な鳥達だった。なかでもブラックスワンは珍しく、圧巻だった。それにしてもこの湖の鳥達は人間慣れしている。もっと言えば人間=餌、位に思っているのかもしれない。実際に見たのだが、湖の周りをランニングしつつ餌をばらまく人がいるせいか、私達が水際に行くだけで物凄い勢いで皆近寄ってくるし、私達が歩きだすと後をついてくる。まあ、シャッターチャンスにもなったし、気前のいいサービスと考えれば良い鳥たちだなあと思う。因みにニワトリも1羽いた、野生かは不明。ちょうど一周したころに MOTAT が開園する時間になった。MOTAT の前で記念撮影をしたあとに中へ。思っていたのと違い、かなりクオリティーの高い博物館だった。展示物は全て過去に実際に使われていた乗り物やエンジンなどで、他にも南極探検隊のコーナーやニュージーランド最後のトラム(路面電車)の展示や電話の歴史を教えてくださいの施設、昔の暮らしを再現した町並みのコーナーなど、ディズニーのセットをほうふつとさせる、あるいはそれ以上のものばかりだった。(力学などを体験で学べる科学館のような施設もあり、遠足に来ていた小学生に大人気だった)友人(男性)は、時間が足りず別館の戦車・飛行機館にいけなかったのが心残りだったようだ。だが、十分楽しむことができたのでよしとする。授業後は、環がこちらで仲良くなった関西大学のケンときとみと夕食を食べに行った(環が二人に「北大の人を連れてきて」と頼まれたらしく、私も一緒にさせてもらった)。和食屋さんに行くと、店員さんが日本人で、日本語で接客されたので、

少し和んだ。私はアボカドサーモン丼をたのんだが、他の三人はから揚げやトンカツの定食をたのんでいた。(定食はみそ汁付きでご飯お代わりし放題)初対面だったのに話しが凄く盛り上がり、夜遅くなってしまった。そろそろ帰ろうという時、関西大学の二人から環にドッキリなプレゼントが。環のクラスメイト全員と先生からの寄せ書きと、二人のメッセージつきポストカード、そしてプレゼントとして、マオリ族のスノードーム。サプライズで本当に嬉しそうな彼と、その友人二人を見て、私まで嬉しくなった。知り合ってたった2週間でこういうことが出来る彼らのことを、ますます好きになった。夏休みに北海道に遊びに来ると言っていた。ぜひ再会したい。帰り道、二人と別れたあと彼は若干泣いていた、本当に嬉しかったのだなあと微笑ましい。帰りに明日の映画のチケットを予約しに行ったがよくわからなかったので、当日に買うことになった。家に帰り、Helenと少しだけ話をする。子供たちはもちろん寝ていた。私も就寝。

3月6日(水)

今日はワントゥリーヒルへ。City 中心部から20分ほどのところにあるワントゥリーヒルは、野生の羊や牛などがいる小高い丘。とにかく今日の出だしは最悪だった。乗る予定だったバスが20分以上も遅刻。その上運転手の態度が非常に悪かった。降りる予定の場所が来たら教えてくれるように頼んだら、違う駅で無理矢理降ろされた。運転手曰くワントゥリーヒルへはこのバスでは行けないから、そのバス停で乗り換えろとのこと。そんなことは知っていて、バス停から少し歩いてワントゥリーヒルへ行くつもりだったし、その説明もしたのだが、こちらのお話をまったく聞いてくれなかった。しかし実際に乗り換えたら1、2駅でワントゥリーヒルに着いてしまった。お金を返して下さい。丘には道中に動物の糞が落ちていた。しばらく歩いていると沢山の羊と遭遇した。体が痒いのかフェンスに体を押し付けている羊がいてかわいかった(笑) 残念ながら牛とは会えなかったがうさぎとは会えた! 崖を勢いよく駆け上がる姿は野生の強さを感じさせた。少しアスレチックな感じで丘を登っていくと頂上についた。頂上にはオークランドをつくったとされる人がマオリの人達への敬意を評して建てたという塔があった。塔に刻まれた文字を読もうとしたがよくわからなかった。授業があるので帰還することに。ニューマーケットを観光がてら歩いていこうとしたが親切な日本人の人が歩いていたらとても間に合わないということを教えてくれたのでバスで帰ることにした。(親切な日本人の方、どうも有難うございました)クラスではテストの結果が返ってきた。86点。上のクラスにあがれる点数だったが、今週末には日本に帰るので無意味。悔しいけれども気を取り直して放課後にクラスメイト(うち二人は今日の早朝5時に自転車で朝日を見にワントゥリーヒルに行ったらしい。凄いと)と北大の友人とでマウントイーデンに行った。途中道に迷ったり友人の一人のホストファミリーが倒れたり(あと2泊もすれば日本に帰るのに、もしかしたらホストファミリーを変えないといけないかもし

れないらしい。かわいそうだった)したため途中で帰ったり、などでごたごたしたが、なんとか頂上に着くことができた。この山は昔は火山だったため頂上にはとても大きな窪み=カルデラがある。もちろん立ち入り禁止である。頂上からの景色は最高だった。朝登ったワントゥリーヒルの塔も見えた。頂上についてまず、ふもとで買ったSUBWAY片手に、皆で集合写真を撮ったということだった。SUBWAYはおいしかったし、いい写真がとれた。更に寒い中夜景をみるために頂上で1、2時間待った。しかし、待ったかいがあってとても綺麗な夕焼け・夜景を見ることができた。夜景を背後に集合写真も撮った。オークランドの丘から見える景色は毎度毎度とても綺麗だと思う。さらに凄と思ったのは、オークランドの人達が沢山この山をジョギングしていたということだ。タマキドライブも沢山の人が走っていたが、この街の人達は本当に健康的だ。帰り道はバスが若干見つからなくて焦ったが無事家にたどり着けたのでよかった。明日はこの前見送りになった動物園に行きます。楽しみ。

3月7日(木)

今日はついに、ずっと行きたかった動物園に行った。今回はしーちゃんとも連絡をしっかりととったので大丈夫と思いながら支度、バスに乗り込む。無事にしーちゃんと会うことができた。前にMOTATに行っていたので、バスはスムーズに乗り降りすることができた。しーちゃんのために再び前に行った湖に行った。相変わらず沢山の鳥達がいた。しーちゃんは楽しそうに鳥達を撮影していた。そして動物園へ。色々な動物がいた。カワウソ、レッサーパンダ、ミアキャット、タランチュラ、サル、ゴリラ、鮮やかな鳥達、ライオン、キリン、カンガルー、ゾウ、サイ、トカゲなどなど。カワウソは小樽水族館で初めて見たときから本当に好きなのだが、やはりかわいかった。ちょこちょこ素早く動く感じがたまらない。ミアキャットは岩場の上に凜とたっていて凜々しい感じだった。ゴリラはやる気のないおじさんという感じで、トカゲは保護色が凄かった。鳥達の中でも一番だったのはキーウィという鳥である。この鳥はニュージーランドに特有な鳥で進化の過程で飛ばなくても狩られたりしなかったため、飛ぶ能力を失ったらしい。しかし近年外来種の登場によって環境が変化してしまい、飛べないが故にどんどん狩られているらしい。国の形が似ているせいか、島国の特徴なのか、内部で起きている問題も日本と似ているようだ。それにしてもこの鳥、夜行性なため展示場もかなり暗く正直見えにくかった。かろうじてわかったことといえばキーウィは想像以上に大きい、ということだ。誰もが口を揃えて言うのは、キーウィはスズメやヒヨコみたいな小鳥だと思っていた、ということだ。まあ、逆にドシンとしていてズッシリしている感じが可愛らしく惚れてしまった。しかし一番可愛かったのは意外にもクネクネピッグという豚だった。正直容姿端麗とは言い難い見た目、鳴き声も美声とは言い難かったけれども、逆にそれがとても可愛い動物だった。時間がきたのでELAへ向かう。授業は今週から先生が変わり、いつにもまして退屈だった。ク

ラスの人とは仲が良くなったが、授業に対するモチベーションは正直下がってしまっていた。クラスの後には北大組でフェアウェルパーティーをした。Britmart のフェリー乗り場に集合だったのだが、友人の一人がバスを叫んだが乗ったためバスに乗ったが、渋滞だったためかなり遅刻した。そんなに長い距離ではなかったし、正直それくらいの距離は歩いたほうが早いとは思ったが言えなかった。フェアウェルパーティーは海沿いのフィッシュアンドチップスのお店で行われた。途中で跳ね橋があってちょうど船が通って橋が跳ねている所を見ることができた。店では当然、皆フィッシュアンドチップスを食べた。以前オーストラリアに行った時は美味しいと思えなかったが、久しぶりに食べると意外と美味しかった。まあ、チップスをサラダに変えてしまったので、もはや別の料理になっていたのだが。フェアウェルパーティーの最後には友人がスーパーマーケットで買って用意していたチョコレートケーキも食べた。ロトルアの時もそうだったがこちらのスーパーマーケットのケーキは安い割にとても美味しい。少し皆とお喋りをしたあと自分のバスに乗って帰宅。いよいよ明日はニュージーランド最終日。長いようで短い3週間だった気がする。

3月8日(金)

今日はニュージーランド最後の日。朝8時30分にはIMAXシアターに着いた。一緒にOZを見に行く友人は10分ほど遅刻してきた。映画は10時に始まるのでそれまでお土産を買いあさることに。私は父親へのマグカップとバイト(家庭教師)先の女の子へ羊のぬいぐるみを買った。それとサークルの人達、バイト先へのチョコレートを沢山買った。友人もチョコレートやマグカップ、ハチミツ等をお土産に買っていた。そんなこんなする間に、映画館に再び着いたのが9時55分、上映開始の5分前だった。(映画館まではお土産屋さんで偶然出会ったたくやと一緒にいった)3DのOZのチケットを買った。時間がなく焦ったが大丈夫だった。映画は字幕無しの英語であったことを差し引いても、お粗末な内容だった。せめてもの救いは3Dテクノロジーがかなり凄かったということだ。私にとっては初めての3D映画だったので、技術は感動したが残念だった。映画のあとは前々から行こうと考えていたマクドナルドへ行った。ラム肉のハンバーガーとHokey Pokey味のシェイクを注文。とてもおいしかった。特にシェイクは甘かったが、ハンバーガーにあった。値段もサイズも日本のものとほとんど変わらず、マクドナルドには世界共通の基準があるのだろうかと思った。そしていよいよ最後のクラスへ。授業自体は何時も通りだったが、クラス後に皆で集合写真を撮ったり一対一で写真を撮ったりしたのがとても楽しかった。やっと仲良くなれたところだったので、正直とても寂しい。その後スチューデントラウンジで皆とお喋りしたり、北大組と写真を撮ったりしたら瞬く間に時間が過ぎて、スチューデントラウンジが閉まってしまった。本当に寂しかったが仕方ない。FacebookやLINEで繋がっているしいつかまた再会できると信じることにする。ELAから出て私はレンタルをしていた携帯電話を店に帰しに行っ

た。途中の交差点が騒がしかったので何事かと思って見ていたらなんと、交差点の真ん中で男性が女性にプロポーズをしていた！みんな盛大に拍手していたので、どうやら成功したみたい。流石、海外。レンタル会社に到着したが、エレベーターが全然反応しなかったので「シンドラー製は怖いな」などと思っていたら、実は6時以降は特別なカードを持っている人しか上へ上がれないとのこと。実際レンタルした際にもらった紙を確認してみると営業時間が6時までとなっていた。その紙に載っていた電話番号にもかけてみたが繋がらなかった。デポジットはとりかえせないと諦めつつ友人と一緒に途方にくれていると、北大1年生のえみが、来週以降もオークランドにいて、かつ同じ会社からレンタルをしたのを思いだした。まだえみがバスに乗っていないことを祈り、急いで電話をしたけれども繋がらない。諦めよう、と思い、とぼとぼとビルの中からでていったところで奇跡的に、ちょうど向かい側の道にえみを発見。友人が大声で呼び止めてくれた。事情を話すと快く引き受けてくれた。本当にいい子、感謝。無事に携帯電話を返せたので少しだけお土産屋を見て回った。そして最終日だったので早めにホストファミリーの元へ帰ることにした。最終日だったが、冷たいホストファミリーとの時間を過ごすのはやや苦痛だった。ホストファミリーと写真を撮ったあとに、ひとりで夕食を食べるのは複雑だった。ちなみに、最後の夕食が缶詰のミックスペジタブルを混ぜただけのパスタだったのだが、食事を終えて、一度部屋に戻ってからリビングに行くと、HelenとJustinが私のパスタとは違うパスタをわざわざ作って食べていた。悲しいというより、ただただびっくりした。まあ、とりあえず明日は朝4時起きなので、早く帰荷物詰めを終わらせて寝ようと思う。

3月9日（土）

朝4時起床。家の写真を撮って、朝食を食べる。ピックアップの車が来て、Helenが来てくれた。今までのお礼を言って、お別れ。意外にもあっさりとしていた。20何人目ともなると、こんなものなのだろうなあとしみじみする。ピックアップのdriverに朝早いなあ、この時間は君だけしかピックアップしないよ、と言われ申し訳なくなる。空港に到着し、すぐ友人に会うことができた。搭乗手続きを済ませ、荷物検査。日本人の高校生団体がいてとても混んでいた。おそらく修学旅行だろう。朝焼けを見ながらニュージーランドとお別れした。

最後に

今回の留学の当初の目的は、海外旅行を兼ねた英語力の向上であった。そのため、語学学校の授業やホームステイにかなり期待していた部分が大きかったのだが、語学学校は日本人ばかり、ホームステイはビジネスライク、と「英語を使う」という点において、かなり厳しい環境であった。しかし、その状況下でも、もっとできることがあったのではないか

と後悔している。一緒にプログラムに参加した友人と英語で会話する、ということをして
いたが、所詮相手は日本人で、日本でもできることである。それより、日本人以外の友人
を作るであるとか、自分から積極的にホストファミリーに話しかけるなどすれば良かった
と思う。結局、何事も自分から動かないとだめだということを思い知らされた。自分で主
体的に動くのは、煩わしかったり面倒だったりして、つい楽な方に流れてしまいたくなる
(日本人の友人と遊んだり、ホストファミリーと話さなかったり)。しかし、その気持ちを
変えていかなければ、せっかくのチャンスも逃してしまう。厳しい環境に身を置くのは不
可がかかるが、その分得られるものも大きいはずだ。小さい目標ではあるが、いつかひと
りで海外旅行を出来るくらいになりたいと思う。